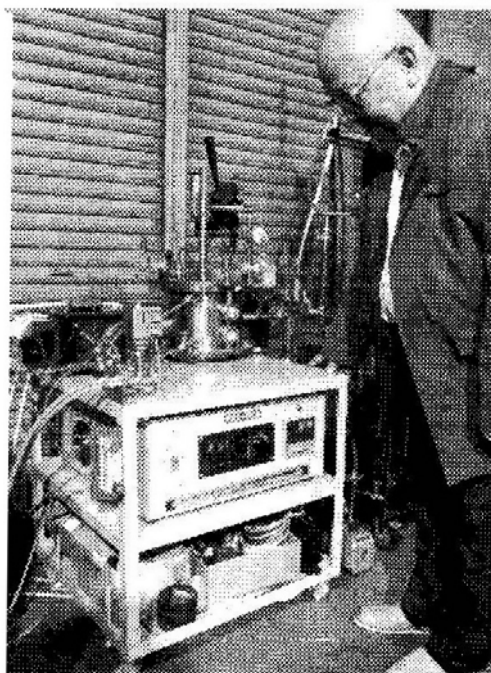


15分で1700度C到達

安価・小型の高周波電気炉

フルテック開発
大阪と



フルテック(大阪府八尾市、古田吉雄社長、072・920・3400)は大阪大学と共同

で、起動から15分で1700度Cに到達する小型の高周波電気炉(写真)を開発した。独自の高周

波技術などを採用して装置の小型化を図るとともに、価格を既存品の約5分の1に抑えた。作業時間の短縮にもつながり、電気料金引き上げの影響も抑制できそうだ。大学などの研究機関を対象に2013年1月から発売する。

制御関連は独自プログラムを開発し、搭載した。金属など焼結時間の短縮と消費エネルギー低減につながり、生産性向上にも寄与する。金属やセラミック、チタンの短時間で溶解や焼成は結晶粒子が小さくできるメリットもあり、応用範囲も広いと見ている。すでに特許を申請中。

通常は高額になる高周波装置で、国産の10分の1となるブルガリアの高周波素子を使うなど低コスト化を図り、製品価格を従来品比5分の1程度の262万5000円に抑えた。

新製品は阪大接合科学研究所で焼成テストをした後、大手電機メーカーなど約20社に製品を提供した1年間のフィールド試験を実施。性能に問題がないことを確認した。

まず研究施設向け製品は年間100台の販売を目指す。フルテックの古田社長は「汎用型の工業用電気炉も13年内の発売を目指す」としている。フルテックの12年8月期売上高は2億円。